

【事例紹介】

ニュージーランド学校教育

-コロナの現地報告-

New Zealand School Education: Covid-19 Report

ワイヌイオマタ高校 片岡 大路

KATAOKA Daiji

(Wainuiomata High School)

キーワード：ニュージーランド、コロナ禍、ロックダウン、オンライン授業、留学支援

はじめに

ニュージーランドではコロナ対策のため3月25日から5月18日までロックダウンとなり、不要な外出が禁止となり、移動も自分の住んでいる周辺に限られ、車を使っただけの遠出などは厳しく取り締まられました。

これに伴い全ての学校も閉鎖となり、本校ではロックダウンに入る数週間前から生徒全員にアンケートをとり、コンピューターを持っていない生徒には教育省からラップトップが付与されたり、家にインターネットが無い家庭には紙媒体で課題を配布したりと準備を進めていました。

このレポートでは現場でニュージーランドの教育現場に立つ教師として、また国際課代表として、現地生徒と日本人留学生のアンケート結果を基に、オンライン授業・学習と留学生の体験をできるだけ忠実に描写したいと思います。

オンライン授業

ニュージーランドの学校（小中高）のほとんどはオンライン授業を導入し、時間割を作ったりして対応していましたが、本校の場合この決まった時間割は科目によっては設定せず、Microsoft 365 というプラットフォームを使ってそこに課題などを教員が投稿し、生徒は好きな時にそれにアクセスできるという形をとっていました。教員に直接話をしたい場合はMicrosoft 365のチームチャット機能やビデオ会議などで予約を取ることもできました。ニュージーランドではもともとBYOD (Bring Your Own Device) という自分のノートパソコンやスマホ、i-padなどを学校に持参し、テクノロジーをフ

ルに活用しながら学習するのが主流となっていました。本校も2018年からMicrosoft 365を使って授業をしたり課題を与えたりしていたので多くの生徒にとってあまり抵抗なくオンライン授業に入れたという経緯があります。

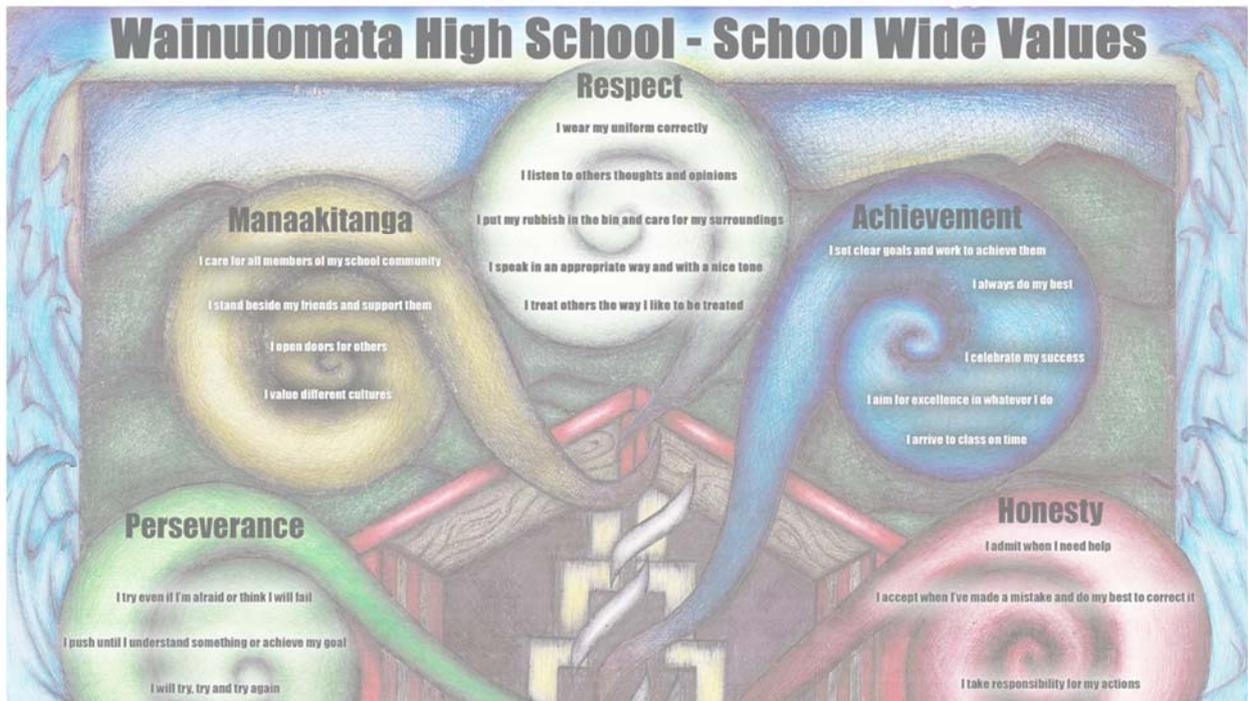
ロックダウン中のケア

留学生にとって異国でロックダウンをするというのはかなりチャレンジングであったと思います。後述する本校の生徒のアンケート結果を見てもこれは明らかです。ホームステイファミリーといくら仲が良くてもずっと一緒にいなくてはいけないので、ストレスをお互い感じやすかったと思います。本校の留学課ではほぼ毎日生徒とLINEやMicrosoft 365のチャット機能などでコミュニケーションをとりながら、生徒のモチベーションやメンタルケアをサポートしていました。またジャシンダ首相の「Be kind=優しくなろう」のスローガンをもとに、校長から全教員に対してロックダウン中の1番のFocusは生徒のメンタルケア、2番がアカデミックケアという優先順位が決められ、スタッフ一同取り組んでいました。留学生だけでなく現地生徒にとってもロックダウンというのは非常にストレスフルな体験だったのです。

生徒のやる気を引き出す取り組み

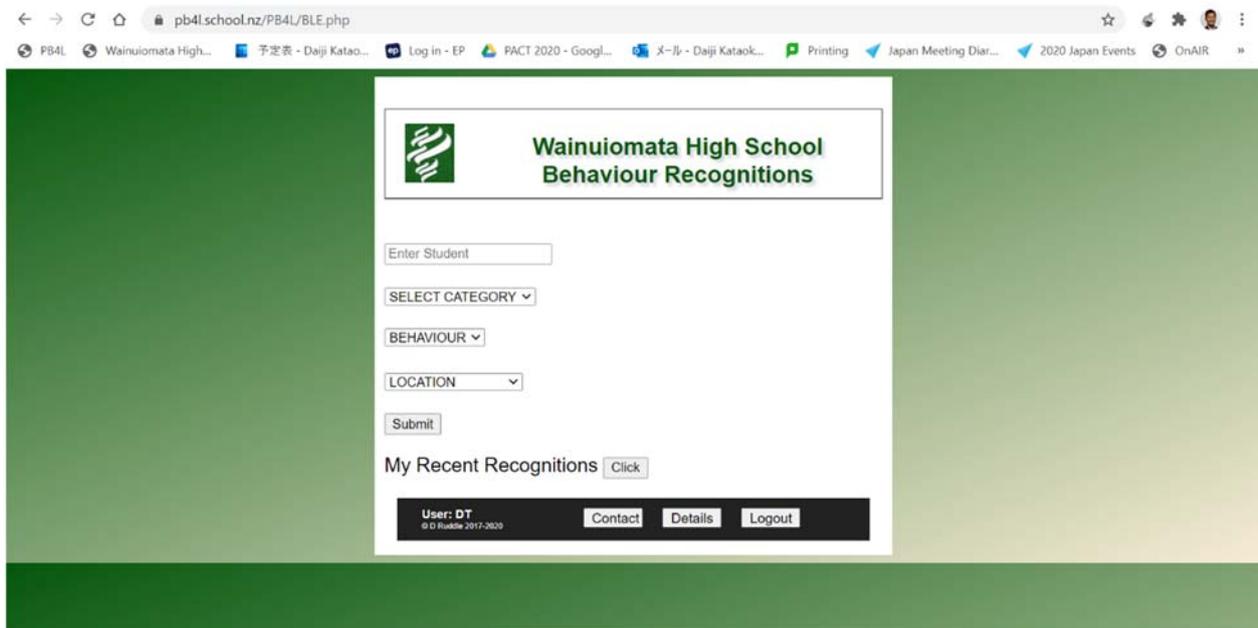
ロックダウン中のスローガンが「Be kind」であったのに加え、ニュージーランド教育省はかねてからPB4Lという取り組みを推奨しています。PB4LとはPositive Behavior for Learningの略で、簡単に言うと「褒めて育てる」というものです。

先生が生徒に対してきちんとした価値基準（School Values=学校の価値観）を示し、それに基づき生徒が良い行いをしたときに言葉で褒めるだけではなく、指定のウェブサイトから生徒に対してValue Cards（価値カード）を付与します。



＜ワイヌイオマタ高校の School Values (左から：忍耐、おもいやり、尊敬、達成、正直)＞

Value Card を受け取ると自動的に生徒本人と生徒の親がメールを受け取り、どのような理由で価値カードを付与されたかを知らされます。



＜ワイヌイオマタ高校 PB4L ウェブサイト：生徒の名前を選び、どの School Values を満たしたか選ぶ＞

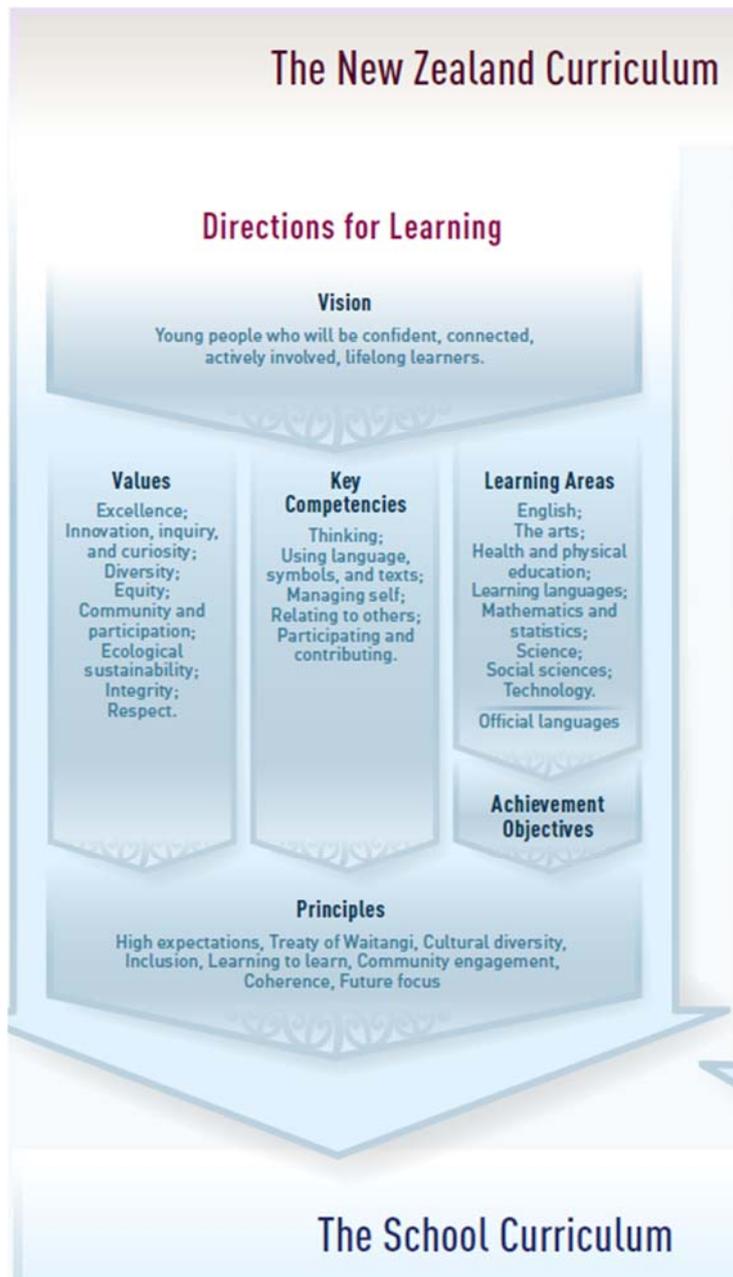
たとえば単純なところでいくと、隣に座っていた生徒の勉強を助けてあげた＝Manaakitanga（マオリ語でおもいやり）の価値観を満たしたことになります。価値カードを先生から付与され、これが溜まっていくと商品券をもらえたり、賞状をもらえたりするというものです。先生の方も価値カードを週に5枚以上付与すると、抽選で金曜日チョコレート（ニュージーランドのチョコレートは大きい！）をもらい、職員会議で拍手され祝福してもらえらというおまけもついてきます。これは気分がいいし、

抽選をする際他の先生の名前もプロジェクターで映し出されるので「私はPB4Lをちゃんとやってるいい先生ですよ」と校長含め他教員にアピールできるのでモチベーションもキープできます。

コロナ対策にしても、こういったPB4Lの取り組みにしても、ニュージーランド独特のやさしさ、寛容さ、Manaakitangaが見て取れます。また、これこそがニュージーランド留学体験がほかの国への留学体験と違うところなのではないでしょうか。

5つの適格性：ニュージーランド教育3本の柱

ニュージーランドのカリキュラム（指導要領）では、今挙げた価値観の教育、アカデミックの学習に加えて、もう1つ重要な柱があります。それは5 Key Competencies（5つの適格性）です。科目での知識の習得や価値観だけでなく、社会で生きていく上での重要なソフトスキルの様なものです。



ニュージーランドカリキュラム：概要

1. Thinking; 思考

批評的かつクリエイティブに情報、アイデア、経験を判断する思考力を養うことです。この思考プロセスを重要な意思決定、行動計画に応用できるよう思考スキルを磨くということです。

2. Using language, symbols, and texts; 言語、シンボル、読み書き

言葉やシンボル、書き言葉などの言語を通していかに知識と経験が表現されてきたかを理解するスキルです。

3. Managing self; 自律

自分自身でモチベーションを作り出し、“やればできる！”と生徒が学習の成功者と思えるスキルのことです。

4. Relating to others; 他者と関係を持つ

他者と関係を持てるスキルとは、違った文化や考え方をもちた様々な人々とうまくコミュニケーションをとり、良好な関係を保てるスキルのこと。違う意見や考え方を取り入れたり、受け入れたりできるスキルです。

5. Participating and contributing; 参加と貢献

能動的にコミュニティに貢献できるスキルのこと。コミュニティとは、家族、学校なども含みます。

これらの5つのスキルがカリキュラムに組み込まれているため、学校はこれらのこともしっかりと教えないといけないのです。

PB4L や「Be Kind」及び5つのスキルのコンセプトが、公然と国の教育カリキュラムに組み込まれているため、結果留学生にとって非常にいい環境で学校生活を送ることができるのです。

コロナ禍での生徒の取り組み：PB4L ケーススタディ

コロナが中国で最初に発生し、世界に感染拡大してしまったのに伴い、アジア人への差別的発言や行動、思想が個人的な問題から政治的問題にまでなったのはニュースなどでニュージーランドにも伝わっています。そういったことも含めてのジャシンダ首相の「Be kind」というメッセージだったので、残念ながら無神経な発言や勘違いされてしまう発言をする生徒は常に一定数存在します。

Racismとは差別の一種ですが、アジア人が差別の対象になるのは留学・移民を経験、体験した方には身近なこととして捉えられるのではないのでしょうか。私はニュージーランドに20年間住んでいて、幸いにもほとんど差別の対象になったことはないですが、低学年の生徒が冗談めかしくアジア人を揶揄するような発言は何度も聞いたことがあります。こういったことはもちろんいじめにもつながりますし、本校でも留学生が他生徒に差別的発言をされた報告が何件もあり、その対策のためにPB4Lの取り組みを使って以下を試みました。

留学生代表の高校2年生、キョウコとハナがPB4L担当の先生と相談し、留学生全員にインタビューしました。内容はあえて全てポジティブな回答を促す質問のみ。たとえばこの学校が好きな理由、ニュージーランドが好きな理由、好きな先生、友達、科目、言われて嬉しかったこと、授業で助かったことなど。それをまとめたビデオをYouTubeにアップし、職員会議と全校集会でシェアしました。ビデオを見せる前、キョウコとハナは自分たちで英語でスピーチをしました。内容は、差別などがあつた事実軽く触れるのみで、私たちはこんなに楽しんでいる、こんなにこの学校、土地、国が好きなんだよ！というメッセージが中心でした。最後に留学生の声をまとめた統計資料を見せながらプレゼンをしたのです。これによって先生や生徒たちから留学生への認知度が上がり、さらに優しい言葉や扱いを受けるようになりました。

日本人留学生（16人）アンケート結果：ロックダウンについて

さて、日本人留学生にとってロックダウンの体験とはどのようなものだったのでしょうか。本校では生徒たちの声を聞き、さらにサポートを充実させるためにアンケートをとりました。

Q1 ロックダウンと初めて聞いたときどんな気持ちになりましたか？

なにそれと思った
日本にロックダウンがないから何かわからなかった
えー、まじかあ、どうしょ！！！！と焦りました…
コロナーふざんけんなよってなりました。
清々しい気持ち
友達に会えない悲しい気持ちとこの先どうなるのかわからない恐怖でした
うれしかった。学校行かないかないでいい
鬱になります。
残念だと思った
強制帰国になるのかと思いました。
国全体で徹底してコロナを防ごうとするのが日本とは違ってすごいとおもいました

なんだろうそれ、と思った
周りの子と仲良くできるかとても心配な気持ちになった
遅くまで寝れる。
ただホリデーのように休みになるだけのようなかんじがして正直あまり実感がわきませんでした。 でも学校や授業もつかめて友達もできたので少し残念な気持ちがありました。
どんな生活になるのかなと思っていました

やはり不安な気持ちが多かったようです。日本であれば自分の家族がいて、家にこもれるのでそれが嬉しい生徒もたくさんいたかもしれませんが、留学生はホームステイファミリーでやはり学校に来れなく友達に会えない寂しさや不安も大きかったようです。もちろん中には学校に行かなくてよいので嬉しい、遅くまで寝れるなどのコメントもありますが、、、笑。

Q2 ロックダウン期間中ストレスを感じることはありましたか？

はい 50% (8人)

いいえ 50% (8人)

半分半分の結果でした。ロックダウンそれ自体がストレスになる、ならないかは人それぞれだったみたいです。ホームステイファミリーとうまくいっているかなどもかなり影響していたと想像します。ホームステイファミリーに気の合うホストシスターや同居している他の留学生仲間がいると悩みなども話ができストレスを感じにくかったのではないのでしょうか。

Q3 ロックダウン期間中、学校はどんなサポートをしてくれましたか？

ビデオコール
生活リズムなど相談に乗ってくれたり、定期的にインタビューをしてくれた
チャットを送ってくれました。
オンライン授業。
覚えていない
不安を解消してくれました
特に何も
話し相手になってくれた
定期的なビデオ電話
ビデオコールや、一週間に一度の生活の報告
Teamのチャットなどで課題をチェックしてくれたり、授業と同じようにわからないところを教えてくださいました。

一人一人の生活について話を聞いていた
ビデオ通話を通して生徒の状態確認及びメンタルケアや勉強の進み具合を確認しその後の改善点を一緒に考えてくれた。
毎週 line や teams を使ったビデオ電話でサポートしてくれた
毎週スタッフの人と電話で話すことを楽しみにしていました。話す時間もたっぷりで、自分のこともスタッフさんのことも知ることができて嬉しかったです。楽しかったし、いい勉強になりました。
宿題などで困った時に先生達が細かい所を丁寧に教えてくれた所

やはり他人と話すことがストレス解消になっていたようです。ビデオ会議などで先生やスタッフとコミュニケーションをとることで繋がっている感覚をもてたのが嬉しかったようです。

Q4 ロックダウン期間中、ホストファミリーと何かしたことはありますか？

クッキング ランニング 映画見る
やったことのないゲームにチャレンジした
オンライン教会に参加した。
いえの掃除
料理をした
ホストファミリーと映画を見たり、散歩に行ったりしました
イースターエッグ探し
特にはないです。
オンラインくっきんぐ
二日に一回 night walk をしていました。
一緒に料理などをしました
料理、散歩
誕生日パーティー
お菓子を一緒に作ったり、運動したりした。
近くの山や家の周りをゆっくり散歩したり、スポンジケーキを焼いたりしました。
リフレッシュのために散歩をしたこと

ホストファミリーと過ごすことで気を紛らわせることができたとの感想が多いですね。これは、例えば子供のいないホストファミリーにとっても同じだったかもしれません。オンライン教会やイースターエッグ（復活祭）探しなども留学ならではの経験です。また複数のホストファミリーが共同でオ

オンラインクッキングを企画し、レシピなどをシェアし繋がりを楽しんでいた学生もいたようです。ロックダウン中は危険な行為や遠出を禁止されていて、体を動かすアクティビティは近所の公園や森をウォーキングするだけに限られていましたので、オンラインクッキングなどクリエイティブな企画は生活に刺激があってよかったと思います。

Q5 三学期（7月13日から）に入ってから学校内の人から嫌なこと・差別的なことを言われた／されましたか？

はい 25%（4人）

いいえ 75%（12人）

ロックダウンが明けて5月中旬から学校が段階的に再開しましたが、差別的なことを言われた生徒はやはり完全にはいなくなりませんでした。6月には前述したPB4Lプロジェクトで留学生代表のハナとキョウコが協力して留学生のビデオを作ったり、集会でスピーチをしたりしながら留学生に対する誤解や偏見をなくそうと努力しました。また差別はいじめの原因にもなります。ニュージーランドではいじめに対する対策としてカウンセラーや色々なゲストスピーカーを呼んだり、イベントなどをします。カウンセラーの人たちはシリアスな問題のある子の悩みを聞いたり対応するだけでなく、いじめなどがおこらないように予防的活動を推進したりします。その一環としてPink Shirt Day（ピンクシャツデー）というものがあります。この日は、Celebrating Diversity（多様性を祝う）ことをモットーにいじめなどに対して「No」を示すため、ピンクのシャツやアクセサリを学校に着てこようというものです。ニュージーランドの学校は制服がある学校が大半ですが、Mufti Day（マフティーデー）といってこういったイベントのある日は私服を着てもよくなっています。

私服を着れる見返りとして、生徒はGold Coin Donation（金色の通貨募金＝NZだと1ドルか2ドルコイン）を求められます。その募金額をいじめ対策などを行っている機関に渡すというわけです。

本校の留学生もこの日を活かして、たこ焼きを作って配ったり、ピンクの折り紙でさくらを作り、違った国々の生徒たちに母国語で「言われたら嬉しいポジティブな言葉」を書いてもらい、たこ焼きを食べてもらうというアクティビティを企画しました。



色々な国の生徒がよい言葉を書いたサクラの折り紙で作った桜の木。職員玄関に飾られる予定

Q6 オンライン授業を受けた感想

良いと思う
ネット環境の影響で止まることが時々あったけど授業にあまり支障はなかった
もっと先生と話す機会が欲しい
オンライン授業はすごくにがてです
難しかった
学校に通えない状況で友達の顔を見れたり、先生に教えてもらえるので助かってます。
めんどくさかった。
あまりくろうはしなかったです
直接じゃないからいろいろたいへんだった
回線などのいろんなことでうまく会話ができないときがあったりしたので、実際に学校に行って行う授業のほうが集中できると思った。
不自由な点もなく自分のペースで課題を進められるのでよかったです
少し大変だと感じた。いつもの授業より、発言をしないとイケなかったから。英語の勉強にはなったけど。
普通の授業よりも楽しかった
teams の使い方が最初いまいちわからなかったり、どの課題がいつまでにやらなきゃいけないのかわからなかったものでやりづらかったです。ですが、ビデオチャットで授業をやってくれたのはとても助かりました。
インターナショナルのランチセッションはとても楽しかったです。オンライン授業は初めてだったのでいろいろ心配でしたがすぐ慣れて、自分の安心する環境でできるのがいい経験になりました。
あまり覚えていない

上の結果からもわかりますが、オンライン授業を受けた留学生の感想はまちまちでした。実際に友達や生徒に会えなかったり、モチベーションをキープするのが難しかったりした生徒もいましたが、自分のペースで自分の好きな時に勉強できるスタイルが合っている生徒もいたようです。

現地の生徒（79人）アンケート結果：オンライン授業・学習について

ウエリントンにあるビクトリア大学の研究リサーチチームが、ロックダウン中のオンライン学習に関して本校の現地高校2年生・3年生（79人、留学生は含まない）を対象にしたアンケート結果をレポートにしました。上述した本校の日本人留学生のアンケート結果を裏付けるデータが示されています。

ビクトリア大学のレポートによると、本校の53%の42人の生徒が普段通学しているときに比べ

て自宅学習（オンライン授業）では勉強する時間が減ったと回答しましたが、ほぼ同じ数の22%の17人が自宅学習・オンライン授業でも同程度、また25%の20人が勉強時間が増えたと回答しています。

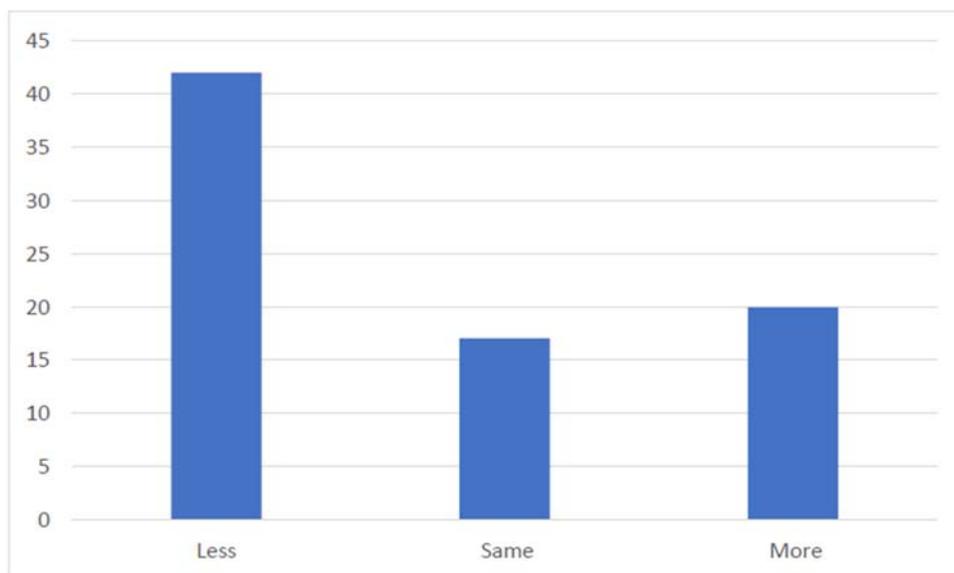


Figure 2: Time spent on schoolwork at home as compared to at school

グラフ2：左から、オンライン授業では勉強時間が減った、同じ、増えた

次に、以下55%の43人の生徒が自宅学習・オンライン授業では実際に学習できた度合いが少なかったと回答し、30%の24人の生徒が学校で学習できたのと同じぐらい学習できたと感じていると回答しています。

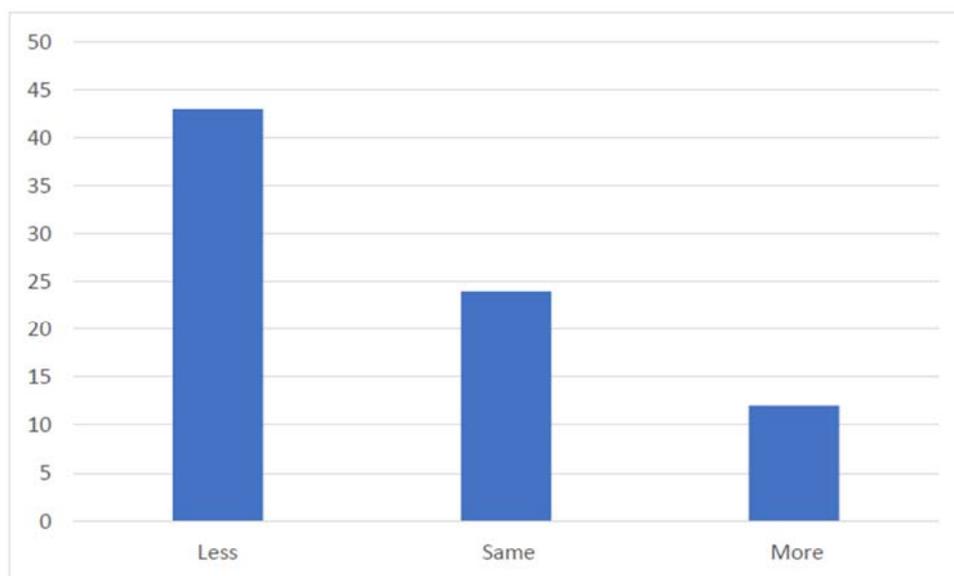


Figure 3: Students perception of how much they learned studying at home compared to at school.

グラフ3：生徒の学習度合に対する自己認識：左から学習度合いが低い、同じ、高い

この傾向はニュージーランド全体を対象にした1975人（高校2年生1045人、高校3年生930人、348校参加）のアンケート結果（表1）とも類似しています。

Table 1. Time students spent learning at home compared to at school in relation to how much they learned in the two contexts.

Time spent on schoolwork at home	Learned less at home	Learned about same at home	Learned more at home
Less time	66% (648)	21% (207)	13% (128)
Same amount of time	37% (185)	40% (203)	23% (118)
More time	36% (174)	29% (141)	35% (171)

表1：自宅学習・オンライン授業での勉強時間の比較と、それに伴う学習者の学習度合に関する自己認識の推移

上の表からもわかるように、自宅での学習（オンライン授業）に対する学生の捉え方は分かれています。全体の1975人のうち50%の983人が、自宅学習では学校の勉強時間が減ったと認識していますが、28%の551人の生徒が自宅学習でも同程度の学習度合であったと認識しています。

終わりに

今回はニュージーランド政府や現地校がコロナ禍で教育に関してどのような対策をしたのかを簡単に紹介し、現地の生徒や日本人留学生達の声を元にロックダウンに伴うオンライン学習や生活がどのようなものだったのかをレポートしました。コロナ禍でニュージーランド政府・教育省はビザ延長、オンライン学習での単位付与などの対策も含めて様々な政策を施しました。また、ロックダウン中に留学生をどのようにサポートすべきかまとめた指針もSIBEA（The Schools International Education Business Association:小中高の留学生をもつ学校を代表する最高機関）を通して指示しています。コロナ禍でもニュージーランドは留学生にとって非常に優しく、安心して勉強できる環境だとわかつて思います。

参考文献：

Covid-19 Research Report: Summary report for Wainuiomata High School

Anne Yates, Louise Starkey, Ben Egerton and Florian Flueggen

September 2020

Contact: Anne.Yates@vuw.ac.nz

Covid-19 Research Summary Report: New Zealand Wide

Anne Yates, Louise Starkey, Ben Egerton and Florian Flueggen

August 2020

Contact: Anne.Yates@vuw.ac.nz

The New Zealand Curriculum (page 9)

Ministry of Education